

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	いの ゆきほ	
単位数	2 単位		猪野 幸峰（実務経験あり）	
開講学期	前・後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

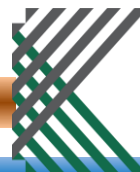
授業概要	外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、はり施術における基本刺鍼手技を習得させることを目的とする。前期の前半では、①片手で鍼と鍼管を扱う片手挿管の習得、②押手および刺手の意義や実際の方法の習得、③管鍼法の手順の習得について刺鍼練習台を用いて行う。前期後半において、手指・施術野の衛生的な処理操作を行い自らの身体に刺鍼をさせ、どのような感覚が生じるのかを体験させることにより、痛みの発生を抑制した刺鍼法を習得させる。			
授業の一般目標 (GIO)	正確かつ衛生的で安全に刺鍼を行えるようになるために、基本的な操作や鍼の基礎知識、必要な衛生学的知識、施術者としての心構えを修得する。			
カリキュラムポリシー (CP)	② 患者本位の施術を行うために必要な安心・安全な施術が実践できる技術を学ぶ授業を段階的に編成する。			

【担当教員から】

教科書	1. はりきゅう理論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） 2. はりきゅう実技〈実技編〉第2版；東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験と、授業態度を総合的に評価する。 授業態度：授業毎の身だしなみ等の配慮の可不可、ペアでの練習時の受け手評価シートによる客観評価によって算定される。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 実技試験の成績：100％
履修の条件 留意点	実技試験が60％以上で履修とする。 【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本はりきゅう実技 I の単位として認定されます。
担当教員からの メッセージ	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 技術習得ですので、毎日の反復練習を心掛けてください。 2. 少しずつレベルアップしていくためには毎回の授業内で確認が必要となるので、体調管理をしっかりと行い、欠席しないようにしてください。 3. 事故防止のため、指示された部位以外への刺鍼は禁止いたします。 （身だしなみなど衛生的配慮等を施術者として心掛けてください。）
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3 F 教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	授業概要	鍼実技を進めるにあたっての心構えが理解できる 鍼を扱うにあたってのリスク管理が理解できる	実習
	2	刺鍼の基本手技(術式)の紹介	撚鍼法、打鍼法、管鍼法、接触鍼法について説明できる	実習
	3	基本刺鍼練習(刺鍼練習台上での挿管法)	管鍼法の手順が説明できる 片手挿管法を目視せずに行うことができる 刺鍼練習台に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる 刺鍼するにあたって、姿勢正しく行うことができる 鍼具を丁寧に扱うことができる	実習
	4	基本刺鍼練習(片手挿管法・管鍼法)		実習
	5	基本刺鍼練習(片手挿管法・管鍼法)		実習
	6	基本刺鍼練習(片手挿管法・管鍼法)		実習
	7	基本刺鍼練習(片手挿管法・管鍼法)		実習
	8	基本刺鍼練習(片手挿管法・管鍼法)		実習
	9	中間実技試験	(片手挿管法、管鍼法)	試験
	10	基本刺鍼練習(衛生操作)	清潔な施術環境(ハウスキーピング: 施術用ワゴン、ベッド、枕やタオル、床など)について、その手順とその意味を説明でき、実行できる(以降共通) 施術前後の基本的な消毒の手順とその意味を説明でき、実行できる(以降共通) 自分の下腿に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる	実習
	11	基本刺鍼練習(自己下腿前脛部)		実習
	12	基本刺鍼練習(自己下腿前脛部)		実習
	13	基本刺鍼練習(自己下腿前脛部)		実習
	14	基本刺鍼練習(自己下腿内側面)		実習
	15	基本刺鍼練習(自己下腿内側面)		実習
	16	基本刺鍼練習(自己下腿内側面)		実習
	17	期末実技試験	(自己下腿への刺鍼)	試験
	18	試験フィードバック		実習
後期	19	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿後面)	受け手の姿勢や枕の位置に配慮する事ができる(以降共通) 自身の刺鍼しやすい姿勢・立ち位置で施術を行うことができる(以降共通) 下腿後面に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる	実習
	20	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿後面)		実習
	21	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿前面)		実習
	22	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿前面)		実習
	23	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿前面)	下腿前面に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる	実習
	24	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿内側面)		実習
	25	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 下腿内側面)		実習
	26	中間実技試験	(対人刺鍼: 腓腹筋部)	試験
	27	試験フィードバック		実習
	28	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 腰部)	腰部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる	実習
	29	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 腰部)		実習
	30	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 腰殿部)	腰殿部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる	実習
	31	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 肩背部)		実習
	32	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 肩背部)		実習
	33	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 肩背部)	肩背部に対して、毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる	試験
	34	基本刺鍼練習(対人刺鍼: 腰部)		実習
	35	期末実技試験	(対人刺鍼: 腰部)	試験
	36	試験フィードバック		実習



【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	たかの こうぞう	
単位数	1 単位		高野 耕造（実務経験あり）	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

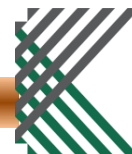
授業概要	鍼灸医学の治療法には様々な対応方法がある。施術者は一つの治療法だけに固執することなく、患者の様々な愁訴、要望に合わせて最も効果的な治療方法を選択しなければならない。外部施術所や学校附属施術所での臨床経験を活かして、四診や証立てから伝統的な刺鍼法や施灸法を実践できるようにすることを目的とする。			
授業の一般目標 (G10)	患者の様々な愁訴や要望に合わせて最も効果的な治療を選択するために、1年次で修得した東洋医学の基礎知識と基本技能をもとに、伝統的な刺鍼法・施灸法を修得する。			
カリキュラムポリシー (CP)	② 患者本位の施術を行うために必要な安心・安全な施術が実践できる技術を学ぶ授業を段階的に編成する。			

【担当教員から】

教科書	1. はりきゅう理論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） 2. はりきゅう実技〈実技編〉第2版；東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	1. 臨床に役立つ奇経八脈の使い方（東洋学術出版社） 2. 臨床に役立つ中医吸角療法（東洋学術出版社）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験にて判断する。
成績評価方法	成績評価の基準と算定方法（評価割合：％） 実技試験：100％
履修の条件 留意点	実技試験の評価を合計して60％以上により履修とする。この科目は専門分野・実習・鍼灸実習・応用はりきゅう実技Ⅱの単位として認定されます。
担当教員からの メッセージ	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 本授業では、特殊な鍼灸技術も学習します。場合によっては危険を伴う手技もあるので、教員のデモンストレーションをよく見て、話をよく聞き、注意を怠らないください。また、事故防止のため、指示された部位以外への施灸を禁止します。指示された施灸が終了した時点で、必ず指導教員に確認を求め、次の指示に従ってください。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3 F 教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	舌診	舌診について説明できる。 舌診から証立てができる。	実習
	2	舌診・温筒灸・艾条灸 知熱灸・深谷灸法 隔物灸(生姜灸・塩灸など)	温筒灸・艾条灸・知熱灸・深谷灸法・隔物灸の使用用途を説明できる。 温筒灸・艾条灸・温筒灸・艾条灸・隔物灸を安全に行うことができる。	実習
	3	脈診1	脈診について説明できる。 舌診、腹診、脈診から証立てができる。	実習
	4	脈診2	脈診について説明できる。 舌診、腹診、脈診から証立てができる。	実習
	5	腹診1	腹診について説明できる。 腹診から証立てができる。	実習
	6	腹診2・散鍼・小児鍼・灸・皮内鍼・円皮鍼・耳鍼	散鍼・小児鍼・灸・皮内鍼・円皮鍼・耳鍼の使用用途を説明できる。 散鍼・小児鍼・灸・皮内鍼・円皮鍼・耳鍼を安全で衛生的に行うことができる。	実習
	7	吸角1	吸角の使用用途を説明できる。 吸角を安全に行うことができる。	実習
	8	前期中間試験	試験後フィードバック	試験
	9	吸角2	吸角の使用用途を説明できる。 吸角を安全に行うことができる。	実習
	10	頭皮部(百会)・顔面部(胡桃灸・眼瞼知熱灸)への施灸	頭皮部・顔面部への施灸の使用用途を説明できる。 頭皮部・顔面部への施灸を安全に行うことができる。	実習
	11	顔面部への刺鍼	顔面部への刺鍼の使用用途を説明できる。 顔面部への刺鍼を安全で衛生的に行うことができる。	実習
	12	八綱弁証と鍼灸実技	証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。 吸角について実践できる。	実習
	13	気血津液弁証と鍼灸実技 1	証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。	実習
	14	気血津液弁証と鍼灸実技 2	証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。	実習
	15	臓腑弁証と鍼灸実技 1	証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。	実習
	16	臓腑弁証と鍼灸実技 2	証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。	実習
	17	期末実技試験	試験後フィードバック	試験
	18	臓腑弁証と鍼灸実技 3	証立てに応じた刺鍼、施灸ができる。	実習



【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	しまだ かずき	
単位数	2 単位		島田 和樹（実務経験あり）	
開講学期	前・後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

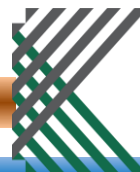
授業概要	外部施術所での臨床経験を活かして、指圧施術の基本手技、人体各部位毎の押圧操作と運動操作、患者の体位に応じた安全かつ有効な施術方法と自身の体に負担を掛けない姿勢を会得する。			
授業の一般目標 (G10)	安全かつ有効な指圧の手技を行うために、人体各部位に合う基本的手技を習得する。			
カリキュラムポリシー (CP)	② 患者本位の施術を行うために必要な安心・安全な施術が実践できる技術を学ぶ授業を段階的に編成する。			

【担当教員から】

教科書	指圧・マッサージ・指圧—実技編—；学校法人呉竹学園編
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、各期末実技試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末実技試験：100％
履修の条件 留意点	期末実技試験の評価が60％以上で履修とする。 【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・基本手技実技Ⅱの単位として認定されます。
担当教員からの メッセージ	- 基本手技を理解・体得し、自身の体に負担を掛けない施術方法を会得することが大切です。 - 技術はすぐには身につかないので、予習と復習を必ずおこなひましょう。 - デモンストレーション等、説明をしっかりと聞き、無駄の無いよう、限られた時間内で有効に練習しましょう。 - 授業は2人一組でおこなわれるので、欠席すると自身の修練が足りなくなります。また、相手にも迷惑が掛かります。体調管理をしっかりとおこない、欠席しない身体を作りましょう。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	按マ指の意義:意義と沿革、按マ指の違い 施術上の注意、指圧の基本、	あん摩・指圧・マッサージそれぞれの意義と沿革が概説できる。 押圧操作の基本操作の種類の説明ができる。	実習
	2	体表からのランドマークの確認 基本圧法:押圧操作の三原則	指圧に必要な部位とその名称を説明ができる。基本圧法のうち、押圧操作の三原則が言える。	実習
	3	・基本圧法:通常圧法、緩圧法、持続圧法、衝圧法、振動圧法、吸圧法 ・基本となる姿勢と手の形	・基本圧法の通常圧法、緩圧法、持続圧法、衝圧法、振動圧法、吸圧法を説明できる。 ・自分の身体を痛めないように基本となる姿勢と手の形を身につける。	実習
	4	基本となる姿勢と手の形	自分の身体を痛めないように基本となる姿勢と手の形を身につける。	実習
	5	腹臥位指圧 背部の指圧1	背部の指圧を2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	6	背部の指圧2	手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	7	殿部の指圧1	殿部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	8	下肢の指圧1	下肢の指圧を3回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	9	前半の復習	基本姿勢と手の形を意識して背部の指圧から下肢の指圧1までの手技を復習し、その手技によってどのように身体が変化したかを確認できる。	実習
	10	前半の復習		実習
	11	下肢の指圧2	下肢の指圧を3回に分け、手順の中盤を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	12	下肢の指圧3	下肢の指圧を3回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	13	肩上部・肩背部の指圧	肩上部・肩背部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	14	背臥位指圧:下肢の指圧1	下肢の指圧を3回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	15	下肢の指圧2	下肢の指圧を3回に分け、手順の中盤を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	16	下肢の指圧3	下肢の指圧を3回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	17	期末実技試験	指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。	試験
	18	試験フィードバック	試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。	実習
後期	19	背臥位指圧:上肢の指圧1	上肢の指圧を2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	20	上肢の指圧2	上肢の指圧を2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	21	頭部・顔面部の指圧	頭部・顔面部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	22	胸部の指圧	胸部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	23	腹部の指圧	腹部の指圧の手順を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、患者に不愉快な思いをさせずに押圧操作をできる。	実習
	24	側臥位指圧:頭部・頸部・背部の指圧1	頭部・頸部・背部の指圧2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	25	頭部・頸部・背部の指圧2	頭部・頸部・背部の指圧2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	26	中間実技試験	指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。	試験
	27	試験フィードバック	試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。	実習
	28	側臥位指圧:殿部・下肢の指圧	殿部・下肢の指圧を2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	29	殿部・下肢の指圧	殿部・下肢の指圧を2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	30	座位指圧:頸部・肩上部の指圧	頭部・肩上部の指圧2回に分け、手順の前半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	31	頸部・肩上部の指圧	頸部・肩上部の指圧2回に分け、手順の後半を練習し、自身の体や患者の体に負担をかけずに、押圧操作をできる。	実習
	32	総復習:腹臥位	腹臥位の施術について、一連の手順を教科書をみずにおこなえる。	実習
	33	総復習:背臥位	背臥位の施術について、一連の手順を教科書をみずにおこなえる。	実習
	34	総復習:側臥位	側臥位の施術について、一連の手順を教科書をみずにおこなえる。	実習
	35	期末実技試験	指定された部位に対する施術をおこない、身体に負担をかけずに適切に押せているか、確認する。	試験
	36	試験フィードバック	試験の結果を個別に伝え、今後の課題として練習に生かすことができる。	実習



【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	さかもと たつのり	あだち まさひこ	
単位数	1 単位		坂本 辰徳 (実務経験あり)	足立 昌彦 (実務経験あり)	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	18回	

【授業情報】

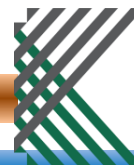
授業概要	あん摩実習 外部施術所や学校附属施術所での臨床経験を活かして、患者の体位に応じて、安全かつ有効な施術方法を学ぶ。後期からの臨床実習に向けて、患者の症状に則した治療が出来るよう、声かけ、気遣い等も学ぶ。 マッサージ実習 学校附属施術所での臨床経験を活かして、人体各部の疾患に応じた安全かつ有効なオイルマッサージの施術方法を学ぶ。				
授業の一般目標 (G10)	あん摩実習 人体各部位に合う、安全かつ有効な按摩の手技を行うために、各部位に応じた施術法を修得する。 マッサージ実習 人体各部の疾患に応じた安全かつ有効なオイルマッサージの施術を行うために、臨床応用後術を修得する。				
カリキュラムポリシー (CP)	② 患者本位の施術を行うために必要な安心・安全な施術が実践できる技術を学ぶ授業を段階的に編成する。				

【担当教員から】

教科書	1. 按摩・マッサージ・指圧－実技編－：学校法人呉竹学園編
参考書	1. あん摩マッサージ指圧実技；東洋療法学校協会編 2. あん摩マッサージ指圧理論；東洋療法学校協会編
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 1. 期末試験：100％
履修の条件 留意点	期末試験、身だしなみなど衛生的配慮、受け手評価シートの評価を合計して60％以上により履修とする。 【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・あマ指実習・応用手技実技 I の単位として認定されます。
担当教員からの メッセージ	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 基本手技を理解・体得し、自身の体に負担を掛けない施術方法を会得することが大切である。 2. 技術はすぐには身につかないので、予習と復習を必ずおこなう。 3. デモンストレーション等、説明をしっかりと聞き、効率的な練習をする。 4. 授業は2人一組でおこなわれるので、欠席すると自身の修練が足りなくなるうえに、相手にも迷惑がかかる。体調管理をしっかりとおこない、欠席しない体を作る。
オフィスアワー	授業開講日の12:45～13:00 3 F 教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	腹臥位按摩法:殿部の按摩	受け手の施術時の体位に配慮できる。 施術者の基本姿勢に配慮できる。 安全かつ適切な圧で施術ができる。	実習
	2	下肢の按摩		実習
	3	頸部、上肢の按摩		実習
	4	背臥位按摩法:頭部、顔面部の按摩		実習
	5	頸部、胸部の按摩		実習
	6	上肢の按摩		実習
	7	関節拘縮・運動麻痺の按摩		実習
	8	前期中間試験	全身の按摩、叩打、曲手	試験
	9	試験フィードバック		実習
	10	密着・姿勢・体重移動	密着・姿勢・体重移動を意識した施術ができる。	実習
	11	オイルマッサージ	患者に配慮したオイルの扱いができる。	実習
	12	下肢のマッサージ1	下肢の疾患に応じたオイルマッサージができる。	実習
	13	下肢のマッサージ2		実習
	14	背部、腰部のマッサージ1	背部、腰部の疾患に応じたオイルマッサージができる。	実習
	15	背部、腰部のマッサージ2		実習
	16	腰下肢患者への施術	制限時間内に腰下肢のオイルマッサージができる。	実習
	17	期末実技試験	腰下肢のオイルマッサージ	試験
	18	試験フィードバック	試験における改善点の確認	実習



【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	かわはた みつのぶ	さかもと たつり	
単位数	1 単位		川畑 充伸 (実務経験あり)	坂本 辰徳 (実務経験あり)	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18回	

【授業情報】

授業概要	外部施術所や学校附属施術所での臨床経験を活かして、ベッド上での指圧実技の練習と臨床に必要な施術録の記載方法と意義を理解し、実際に施術録が記入できるように練習する。 3年次のあま指臨床実習に向け、愁訴に応じた按摩・指圧を用いた施術を組立て実践できるよう、ペアで模擬臨床を実施する。				
授業の一般目標 (GIO)	あん摩、指圧実技、1、2 年次に会得した実技を基にベッドサイドでも実技が出来るようにする。 SOAPを用いた施術録の記載が出来るよう、それぞれ何を記載するのかを理解し、適切な記録が残せるようにする。 1. 医療面接で確認すべき内容について、「現病歴メモ」を用いて理解し、実践する。 2. 施術をしても良いかどうかを自身で判断できるよう、その理由を施術録に記載できる。 3. 状況に応じた体位、姿勢、手技が選択するために、ベッドを用いた施術について、				
カリキュラムポリシー (CP)	② 患者本位の施術を行うために必要な安心・安全な施術が実践できる技術を学ぶ授業を段階的に編成する。				

【担当教員から】

教科書	1. 按摩・マッサージ・指圧－実技編－：学校法人呉竹学園編
参考書	1. あん摩マッサージ指圧実技；東洋療法学校協会編
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 期末試験（臨床実習前評価試験試験含む）：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験、身だしなみなど衛生的配慮、受け手評価シートの評価を合計して60％以上により履修とする。 【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・実習・あま指実習・応用手技実技Ⅱの単位として認定されます。
担当教員からの メッセージ	1. 1・2年生で修得した按摩、指圧の基本手技を、臨床応用できる技術を身につけることが大切である。 2. 実技の前に講義とデモンストレーションがあるのでノートを取りながら、話をよく聞くこと。 3. 1 回だけの授業では修得は困難であるため、復習をして授業に臨むこと。 4. 本科目の単位取得のためには、全授業数の70％以上の出席が必要である。 5. 授業は、講義・実習が組み合わせられ、実習は2人1組にて行われるので、欠席、遅刻や早退などは授業内容が理解できなくなるうえに、ペアとなった組合せの相手にも迷惑をかけることになる。その為、体調管理をしっかりと行い、授業の出席には十分留意すること。 7. 実習では身だしなみなど衛生的配慮ができていない場合は実習に参加することができないので、十分に注意すること。
オフィスアワー	授業開講日の12:45～13:00 3 F 教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
後期	1	・科目説明 ・施術録の記載方法	施術録を記載するにあたり、 ・SOAPを理解する。 ・SOAPに沿った記載方法を理解する。	講義・実習
	2	・指圧の基本圧法の確認 ・医療面接と検査の模擬実践と施術録の記載	・指圧の基本圧法について、6種類がわかる。 ・医療面接、検査を実践し、その結果を記載できる。	講義・実習
	3	・吸圧法の練習 ・医療面接と検査の模擬実践と施術録の記載	・指圧の基本圧法について、吸圧法が行える。 ・医療面接、検査を実践し、その結果を記載できる。	講義・実習
	4	・衝圧法の練習 ・医療面接と検査の模擬実践と施術録の記載	・指圧の基本圧法について、衝圧法が行える。 ・医療面接、検査を実践し、その結果を記載できる。	講義・実習
	5	・持続法の練習 ・医療面接から施術の組立てまでの模擬実践と施術録の記載	・指圧の基本圧法について、持続法が行える。 ・医療面接、検査、適否、施術の組立てを実践し、その結果を記載できる。	講義・実習
	6	・通常圧法・緩圧法・持続圧法の練習 ・医療面接から施術の組立てまでの模擬実践と施術録の記載	・指圧の基本圧法について、通常圧法と緩圧法、持続圧法が行える。 ・医療面接、検査、適否、施術の組立てを実践し、その結果を記載できる。	講義・実習
	7	・押圧操作の応用 ・医療面接から施術の組立てまでの模擬実践と施術録の記載	・ベッドサイドでの姿勢の応用を理解し、実践できる。 ・医療面接、検査、適否、施術の組立てを実践し、その結果を記載できる。	実習
	8	・医療面接から術後の評価までの模擬実践と施術録の記載(指圧)	・医療面接、検査、適否、適した施術、術後評価を実践し、その結果を記載できる。	実習
	9	・医療面接から術後の評価までの模擬実践と施術録の記載(指圧)		実習
	10	・医療面接から術後の評価までの模擬実践と施術録の記載(指圧・肩凝り)		実習
	11	・医療面接から術後の評価までの模擬実践と施術録の記載(指圧・肩凝り)		実習
	12	・医療面接から術後の評価までの模擬実践と施術録の記載(指圧・腰痛)		実習
	13	・医療面接から術後の評価までの模擬実践と施術録の記載(指圧・腰痛)	・医療面接、検査、適否、適した施術、術後評価を実践できる。	実習
	14	・医療面接から術後の評価までの模擬実践(あん摩)		実習
	15	・医療面接から術後の評価までの模擬実践(あん摩)		実習
	16	・医療面接から術後の評価までの模擬実践(あん摩)		実習
	17	・医療面接から術後の評価までの模擬実践(あん摩)		実習
	18	臨床実習前評価試験	「期末試験」として実施	試験